

一般社団法人 日本創傷外科学会

## 専門医試験

～筆記試験過去問題集～

第 13 回専門医試験

問題 1) 持続的局所抗菌薬灌流 (CLAP) で一般的に用いられる抗菌薬はどれか。

1. ゲンタマイシン
2. ミノマイシン
3. バンコマイシン
4. ダプトマイシン
5. クリンダマイシン

問題 2) 足部の神経支配の組み合わせについて誤りはどれか。

1. 脛骨神経 — 足底部
2. 浅腓骨神経 — 足背部
3. 深腓骨神経 — 小趾背側
4. 腓骨神経 — 足部外側
5. 伏在神経 — 足部内側

問題 3) 新鮮熱傷における Tangential excision について誤りはどれか。

1. 水圧式ナイフによるデブリードマンはその一種である。
2. 手背は良い適応である。
3. 深達性Ⅱ度熱傷を対象に行う。
4. Fascial excision に比べて出血しやすい。
5. 熱傷創がわずかに残る程度に留める。

問題 4) 顔面神経支配でない筋肉はどれか。

1. 前頭筋
2. 眼輪筋
3. 大頬骨筋
4. 咬筋
5. 口輪筋

問題 5) 外鼻の再建に用いられない皮弁はどれか。

1. Forehead flap
2. Glabellar flap
3. Abbe flap
4. Rintala flap
5. Washio flap

問題 6) 頬骨骨折の症状として適切でないものはどれか。

1. 開口障害
2. 複視
3. 頬部陥凹
4. 口唇知覚鈍麻
5. 口角下垂

問題 7) JSW (Japan Scar Workshop) Scar Scale のリスク因子の項目に含まれていないものはどれか。

1. 発症年齢
2. 数
3. 人種
4. 罹患年数
5. 部位

問題 8) ケロイドの放射線治療について誤っているものはどれか。

1. 一回線量と照射回数はケロイドの再発率に影響する。
2. 総線量は耳垂では他部位と比べて増加させることが推奨される。
3. 放射線治療後の二次発がんのリスクについてインフォームドコンセントがなされることが推奨される。
4. 電子線照射では設定により線量を体表近くに集中できる。
5. 切除が不能な場合を除いて、一般には手術との併用が推奨される。

問題 9) 瘢痕拘縮形成術について誤っているものはどれか。

1. 拘縮を解除すれば瘢痕は早く成熟する。
2. 有茎穿通枝皮弁に組織拡張器を併用することは有効である。
3. 植皮術は面状瘢痕の修正に有効である。
4. Z形成術は線状瘢痕の修正に有効である。
5. W形成術はZ形成術より延長効果が大きい。

問題 10) 褥瘡の重症度分類である DESIGN-R に含まれないものはどれか。

1. 出血
2. 大きさ
3. 壊死組織
4. 炎症/感染
5. 肉芽組織

問題 11) 各褥瘡に対する再建方法として通常用いない皮弁はどれか。

1. 踵部褥瘡—内側足底皮弁
2. 後頭部褥瘡—僧帽筋皮弁
3. 坐骨部褥瘡—後大腿皮弁
4. 仙骨部褥瘡—大腿直筋皮弁
5. 大転子部褥瘡—大腿筋膜張筋皮弁

問題 12) 褥瘡に関して正しいのはどれか。

1. 壊死組織は温存する。
2. 発生にずれは関係ない。
3. 植皮術による再建は禁忌である。
4. 再建前の wound bed preparation は必要ない。
5. 治癒後の癒痕から有棘細胞癌が発症することがある。

問題 13) 胸骨正中切開後の骨髄炎で、人工血管の露出を認める場合に最も適応となりにくい治療法はどれか。

1. 腹直筋皮弁術
2. 大胸筋皮弁術
3. 大網弁術
4. 僧帽筋皮弁術
5. 広背筋皮弁術

問題 14) 開放骨折と皮膚軟部組織欠損を伴う重度下肢外傷において初療時に行う検査として最も適当なものはどれか。

1. 足関節上腕血圧比測定 (ABI)
2. 足背皮膚灌流圧測定 (SPP)
3. 足趾酸素飽和度測定 (SpO<sub>2</sub>)
4. 足趾 Semes-Weinstein 知覚検査 (SW test)
5. 磁気共鳴血管画像検査 (MRA)

問題 15) 重症虚血肢の血行再建における記述で正しいものはどれか。

1. 血管内治療は無効である。
2. マイクロサージャリーによるバイパス術は禁忌である。
3. 人工血管は自家静脈移植に比して閉塞の危険性が高い。
4. 自家静脈移植による動脈再建は禁忌である。
5. 血行再建により感染の増悪は生じない。